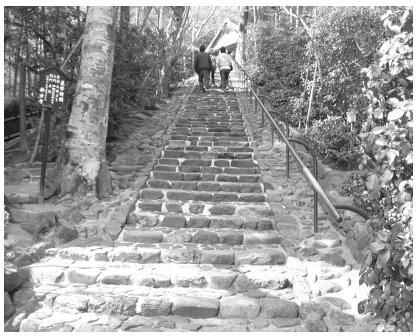

鈴虫寺 京都 うろつきまわりんぐ

鈴虫は秋の夜長の代名詞ですが、ここ京都には鈴虫が１年中鳴いているちょっと変わったお寺があります。
京大の桂キャンパスを過ぎ、さらに西に自転車を走らせること10分、小高い丘が見えてきました。ここが今回の舞台、鈴虫寺です。（浅霧）

80段の石段を登り境内に入ると、そこにはお地蔵さんとお寺、そして綺麗に手入れされた庭園が広がっています。

◀鈴虫寺の外景。庭園とお寺が見事に調和している

ここ鈴虫寺は、正式名称を妙徳山華厳（けごん）寺と言い、仏教の中でも特に難解な華厳宗という宗派のお寺として建てられました。「どんなささいなものにも全ての世界が内包されていて、一瞬の中にも永遠を含んでいる」ということを説いていて、その教え自体を理解することは難しいでしょう。しかし現在の鈴虫寺は、そういった堅苦しさとは対照的な心地よい雰囲気に包まれています。

鈴虫寺の寺舎の入り口の門のそばには、一風変わったお地蔵さんが佇んでいます。人呼んで幸福地蔵。普通お地蔵さんは裸足ですが、この幸福地蔵はわらじを履いているのです。お願い事をすると、幸福地蔵が実際に自分の所まで願いを叶えに来てくれるので、住所と氏名を告げてからお願いをする必要があります。また、お願い事は一度にひとつだけで、そのひとつが叶ったらお礼参りをしてまた新たにひとつお願い事をする、というかたちになっています。

◀厳かに佇んでいるものの、表情には愛らしさがある

だから、例えばあなたが結婚したいと思った場合、まずお守りを買って「すてきな人と知り合えますように」というお願い事をします。そしてそれが叶ったら、一度鈴虫寺に戻ってきて、「叶いましたありがとうございました」とお地蔵さんに報告し、お守りを納めます。そして改めて新しいお守りを手に「すてきな人と仲良くなれますように」とお願いします。そして「すてきな人と付き合えますように」を経てやっと「結婚できますように」とお願いができるようになるのです。結婚への道は険しいですね。

◀庭には断面が三角形や四角形をした不思議な竹がある

このお寺が鈴虫寺と呼ばれるのは、まさに文字通り鈴虫がたくさんいるからです。通常鈴虫は秋に鳴く昆虫ですが、先代の住職が研究を重ねた結果、１年中飼育できるようになりました。奥座敷に飼育ケースがあり、常に数千匹の鈴虫がいるそうです。暖房器具と照明によって最適な温度と湿度が保たれていて、お坊さん達が世話をしています。

１匹の鈴虫が鳴いている期間はわずか20日ですが、その刹那を生きる鈴虫から、次の代へ次の代へと生命が伝えられ、このお寺の歴史を刻んでいくのです。

鈴虫寺の掟

一、お守りには持ち方がある
両手で挟むようにして持つ。このとき「幸福御守」の幸の字を隠さないように。

一、お守りは持っている人を守る
だから、普段から財布などに入れて持ち歩かなければいけない。また家内安全など、みんなの幸せを願うことはできない。それは御札の役目。

一、願いが叶う前に引っ越す場合
お守りを持って鈴虫寺の方角を向いて、引っ越し先を言う。これが「住所変更届」になるという。

一、お守りは幸福を願うもの
だから、他人の足を引っ張るお願いをしてはいけない。また、残念ながら同じ理由で片想いも叶わない。

鈴虫寺周辺ＭＡＰ

◀阪急松尾駅から徒歩15分

はみだしすてーじ

今ごろは社会人です。４年も学生やってたら飽きました。５年以上大学に残る人の気が知れません。
⇒来月号に「４年で出られる人の気が知れません」という投稿が来そうな気がします。

（文・４　ジャス子）
（留年率何割でしたっけ；編）